

2006年8月1日 電話会議

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2007年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

売上は若干未達だが営業利益は概ね計画通りに推移

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2007年3月期第1四半期連結業績と中間期・通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	1 Q		中間期			通期		
	前年比	(E)	当初(E)比	前年比	(E)	当初(E)比	前年比	
売上高	1,132	-30	2,400	-	+44	4,790	-	+95
営業利益	35	-2	85	-	+7	181	-	+20
経常利益	34	-1	83	-	+6	175	-	+18
当期純利益	13	+17	61	+18	+34	111	+18	+48

1.売上高

注:(E)は今回発表した見込、当初(E)は5月22日に発表した見込

第1四半期は前年比3%の減収。要員を1/4削減した水産が38億円18%の減収となったのが主因、加工食品は業務用調理冷食が好調で前年比プラスを維持、低温物流は6%の増収。

中間期、通期は当初目標を据え置く。加工食品は家庭用の配荷率を高め、計画遅れを挽回する。

2.営業利益

第1四半期は計画通りの推移ながら不動産の分譲案件の減少で前年比減益に。

加工食品は販促費の効率的使用が進んだものの、新規のテレビ提供番組開始や「気くばり御膳」などの広告投下を集中したため、概ね計画通りの推移ながら前年比は減益となる。

低温物流は地域保管、物流ネットワークともに好調で計画を上回るペースで推移し前年比増益。

水産は売上減から営業赤字が続くが、前年比では2億円プラスに。売上高も月ごとに回復傾向。

3.経常利益・当期純利益

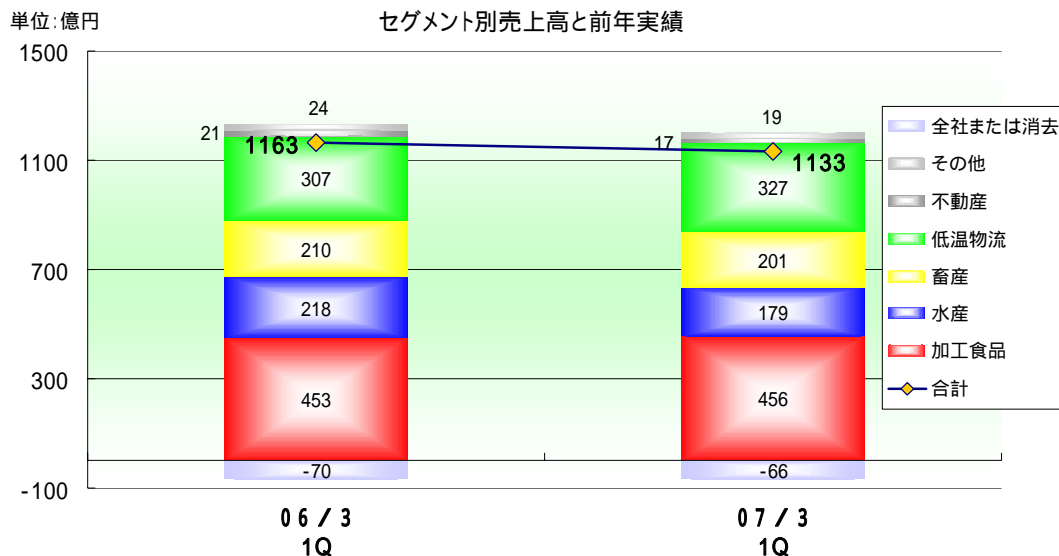
第1四半期の特別損益は減損損失が減少、第2四半期はアールワイフードサービス株式の一部売却により、売却益30億円を計上、この分当期純利益は中間期、通期見込を18億円上方修正。

加工食品の減益は広告積極化によるもの

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



1.加工食品

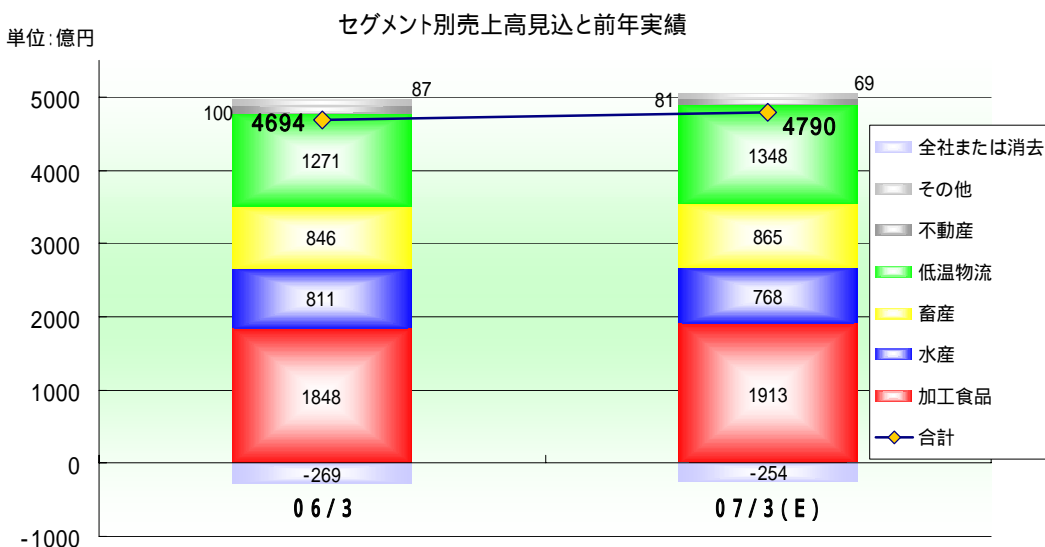
第1四半期の売上はチキンの大幅増などで業務用調理冷食が7%と引き続き高い伸びで牽引したが、家庭用が5%減、アセロラの減収などもあり、全体では1%の増収にとどまった。営業利益は家庭用冷食が売上減ながら販促費の効率使用が進み採算は改善、新規テレビ番組や「気くばり御膳」などの広告を積極化したため概ね計画線の推移ながら前年比では減益。

2.水産

第1四半期の売上は要員減により減収。えびは主力の東南アジアえびを中心に堅調であったが、えび加工品原料の価格上昇により利益率は低下。事業環境は厳しいが再生プランを着実に進めており、売上・営業利益は当初見込を達成する見通し。

3.畜産

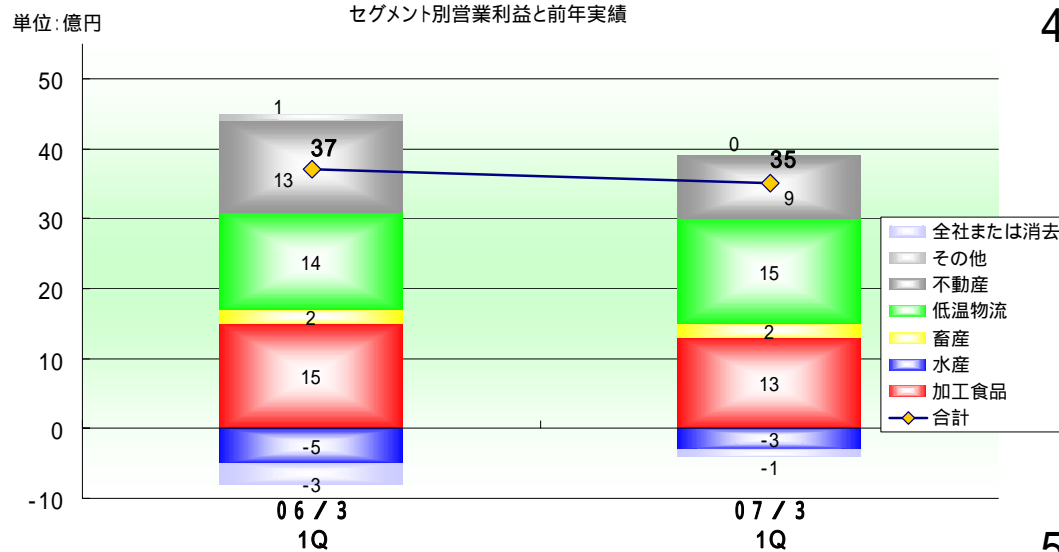
第1四半期は減収・減益。ブラジルチキンが供給過剰感から国内相場の低迷が続き、採算の改善にもう少し時間がかかる。



低温物流は堅調に推移し増収・増益

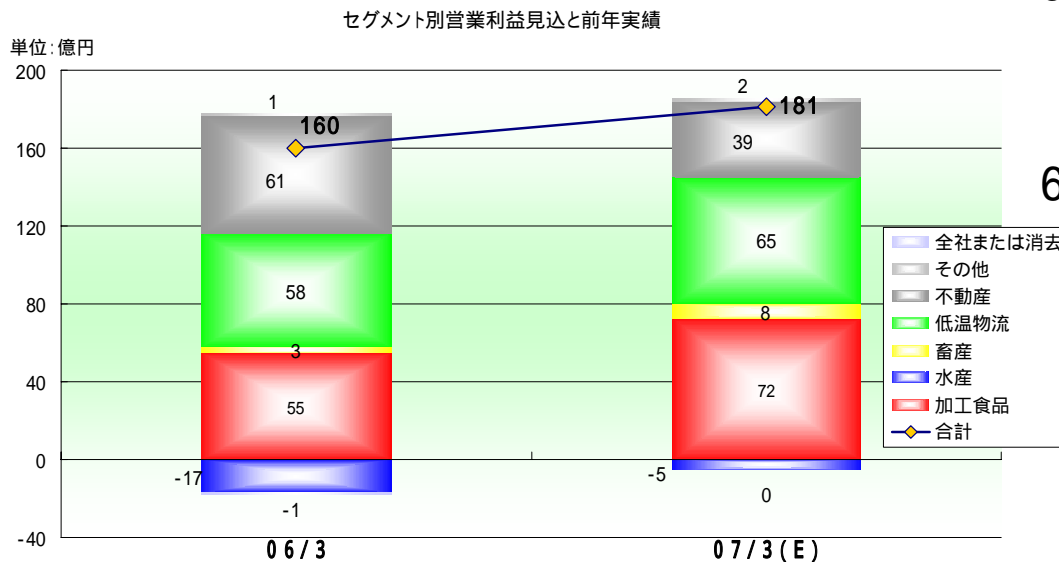
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4.低温物流

第1四半期は、計画を上回るペースで進捗、前年比も増収・増益。物流ネットワーク事業は前年度新設センターが増収に貢献、不採算事業所の改善が進み増益を確保。地域保管事業は果汁原料の取扱い減少が響き前年比減収となるも、東京港湾地区を中心に高い在庫水準が継続し、また、関西・九州で先行したローコスト化の取り組みが関東でも定着し増益。



5.不動産

第1四半期は前年と比べ、土地などの分譲案件が減少し、減収・減益。

6.その他

昨年度末に営業を停止した食品卸売子会社の売上がなくなり減収、てんぐは米国産牛肉の輸入再開が決まったが、牛肉加工品の再開には更に時間がかかる見通しで、生産を大幅に縮小した状態が続く。

調理冷食は家庭用が前年割れだが業務用は好調に推移

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

第1四半期冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

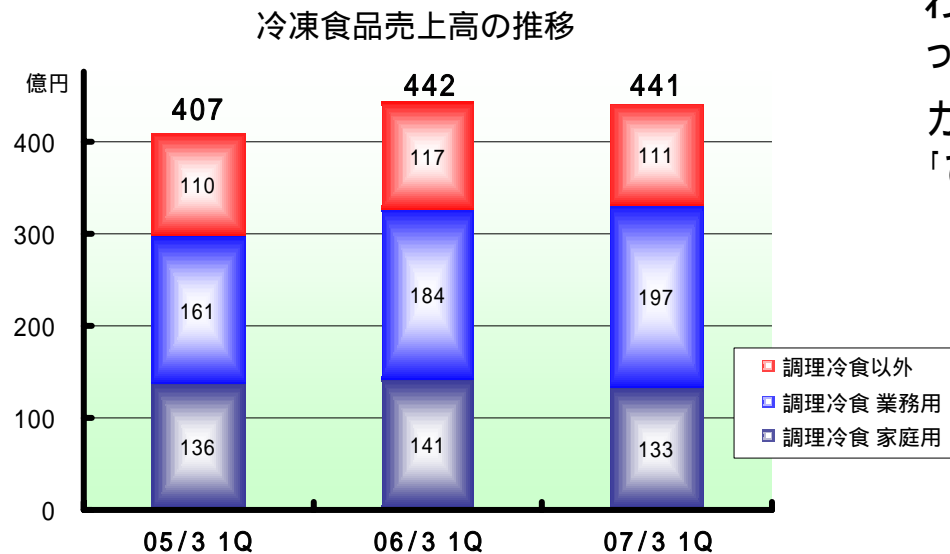
前年比は横ばい。調理冷食は家庭用・業務用合計では2%の増収、農産加工品は1%の減収。中華惣菜や米飯類が減収となったものの、チキン加工品やハンバーグ類が引き続き大幅に増加。

2. 調理冷食

家庭用：「からあげチキン」「パリパリの春巻き」「甘えびシューマイ」が伸び悩み前年比5%減収。「お弁当にGood!」シリーズは「ミニハンバーグ」「衣がサクサクの牛肉コロッケ」が好調に推移したものの、シリーズ全体の売上は前年を下回った。販促費の効率使用が売上高に響く結果となったが、第2四半期以降、配荷率の向上策を進め挽回を図る。

業務用：前年比7%の増収。チキン加工品が相変わらず好調に推移し、また、惣菜ルート向けの「ほっとするおかず」シリーズが順調に推移。

カテゴリ別にはチキン加工品や、「ハンバーグ」「ひれかつ」などの食肉加工品が好調に推移。

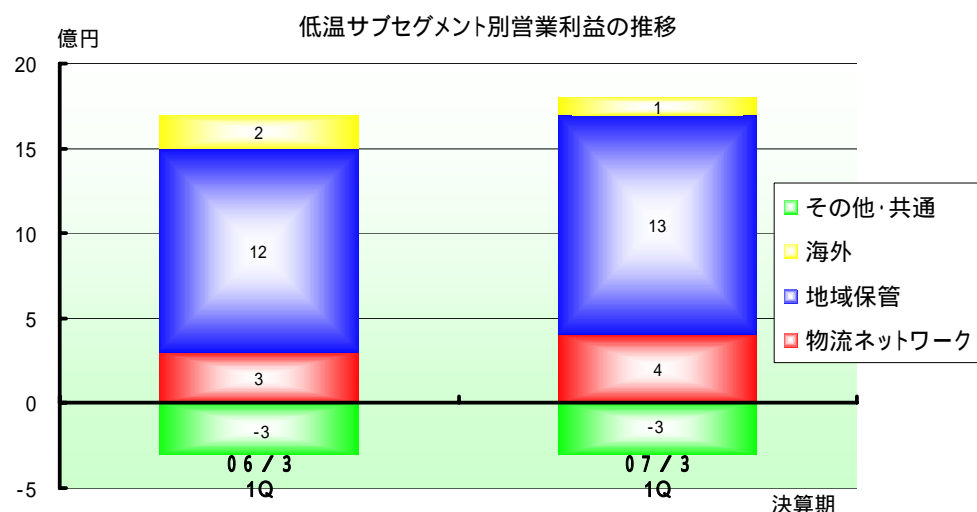
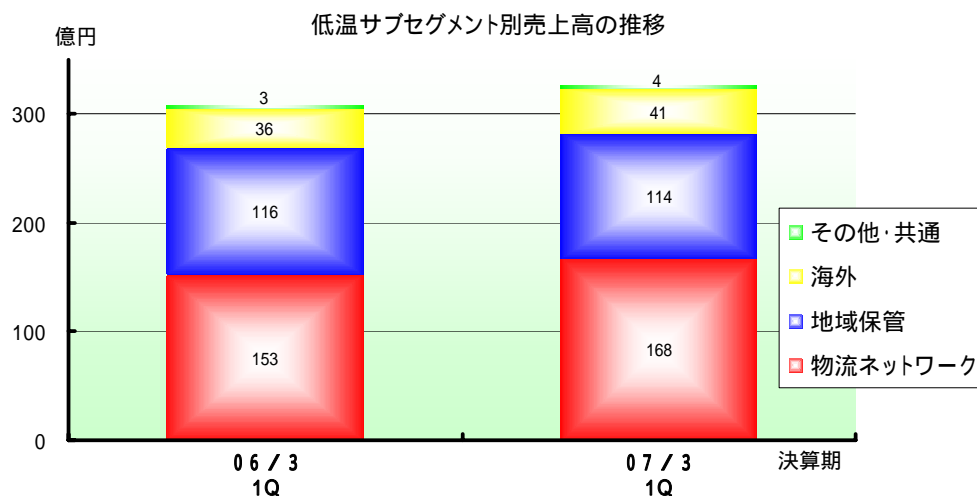


注：07/3 1Qとの比較可能性を担保するため、06/3 1Qと05/3 1Qの数値を遡及修正している。

物流ネットワークは増収増益、地域保管は減収増益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 物流ネットワーク

前年度下期に新設稼動した物流センターが増収に貢献。

不採算事業所の一部で改善が進み増益に貢献。

2. 地域保管

原産地での不作が影響し果汁原料の取扱いが減少し売上は伸び悩む。

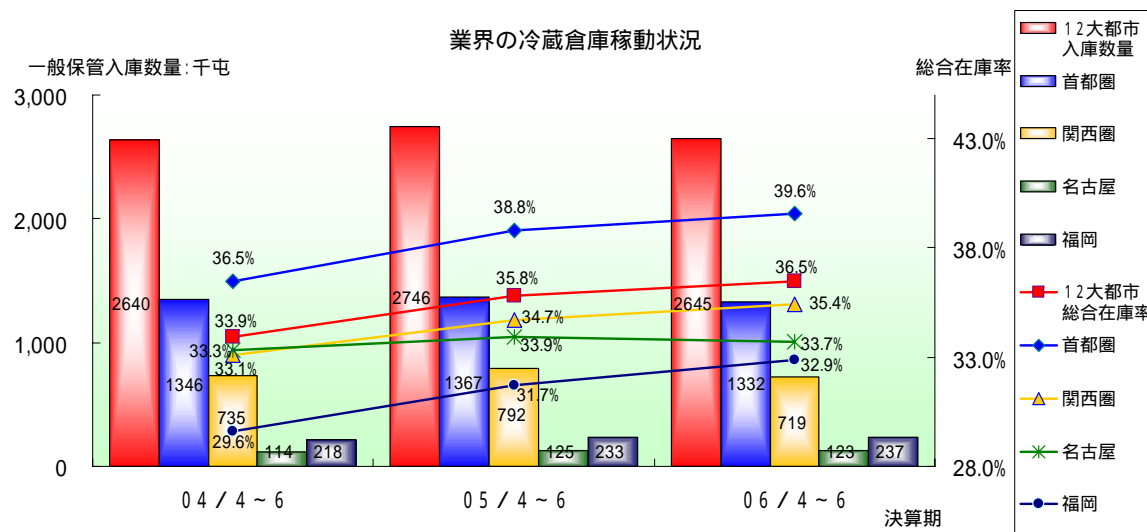
利益面では関西・九州が先行した人員の適正配置が関東でも進み、ローコスト運営体制の定着と相俟って増益に寄与。

3. 海外

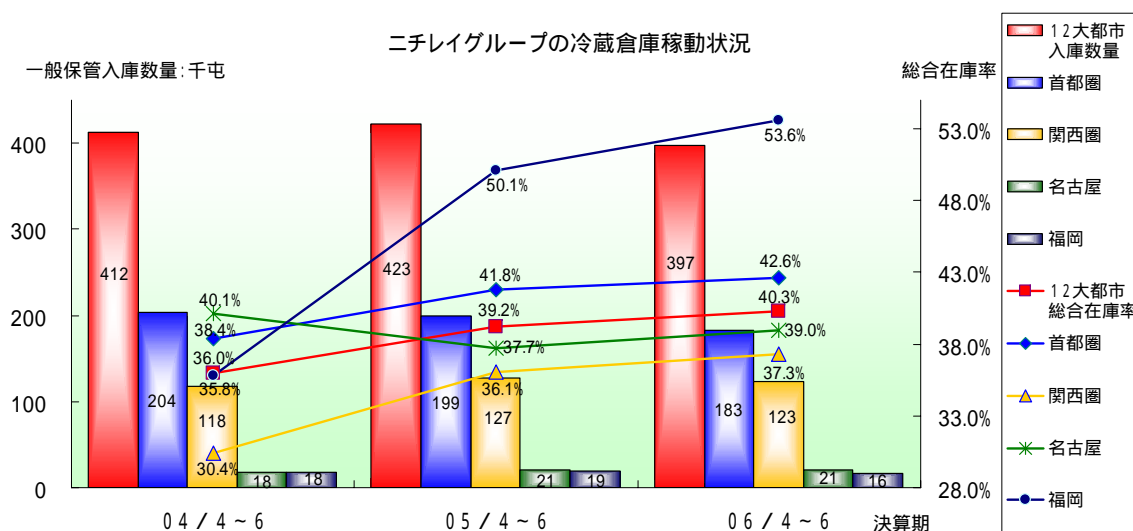
運送の取扱増加が順調に進み増収となるも、果汁保管の取扱い減が響き、減益

12大都市冷蔵倉庫の総合在庫率は高水準が続く

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。ニチレイ



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



1.業界の状況

農産物の輸入量は増加したが、水産物・畜産物の輸入量が減少し首都圏・関西圏で在庫量が減少、総合在庫率は国内在庫が停滞している豚肉をはじめ全般的に荷動きが悪く、高水準で推移している。

2.ニチレイグループの状況

庫腹が逼迫した状況が続いていることと輸入商材の減少により在庫量は減少、総合在庫率は畜産物の荷動き停滞が続いており首都圏を中心に高水準で推移。

固定資産の減価償却が進み総資産は減少

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

07 / 3 第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円 (未満切り捨て)

科目	06/3	06/6	増減
(資産の部)			
流動資産	1,081	1,086	+4
固定資産	1,603	1,574	-28
資産の部合計	2,685	2,660	-24
(負債・資本の部)			
流動負債	830	847	+16
固定負債	821	796	-25
負債の部合計	1,652	1,643	-8
純資産の部	1,032	1,016	-15
(うち自己資本)	1,026	1,010	+9
(有利子負債)	862	907	+45
科目	05/6	06/6	増減
(設備投資額)	8	10	+2
(減価償却実施額)	26	22	-3

【主な要因】

期間売上高が増加し06 / 3比で売上債権が26億円増加。たな卸資産は冷凍野菜と輸入チキンの在庫が増加したものの、水産品の在庫適正化が進み全体では1億円の増加。幕張マンションの分譲代金回収などで未収入金が32億円減少。

有形固定資産は減価償却が進み10億円の減少。投資有価証券は評価差額が減少し20億円の減少。社債が償還され100億円の減少、一方、短期借入金112億円、商業ペーパー40億円の増加。長期借入金の短期資金への振替があり固定負債は減少。

運転資金の一時的な増加に対応するため短期借入金が増加した。

第1四半期は主に維持保全投資を行った。

注: 06 / 3の純資産の部の数値は、少数株主持分と資本の部の合計で算出

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前年実績

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	第1四半期		第2四半期		中間期		通期	
	07 / 3	06 / 3	07 / 3 (E)	06 / 3	07 / 3 (E)	06 / 3	07 / 3 (E)	06 / 3
(売上高)								
加工食品	456	453	513	480	969	933	1,913	1,848
水産	179	218	206	209	385	427	768	811
畜産	201	210	224	208	425	418	865	846
低温物流	327	307	354	324	681	631	1,348	1,271
不動産	17	21	23	19	40	40	81	100
その他	19	24	13	21	32	45	69	87
全社または消去	-66	-70	-66	-69	-132	-139	-254	-269
合計	1,133	1,163	1,267	1,192	2,400	2,355	4,790	4,694
(営業利益)								
加工食品	13	15	22	15	35	30	72	55
水産	-3	-5	-1	-2	-4	-7	-5	-17
畜産	2	2	2	0	4	2	8	3
低温物流	15	14	17	18	32	32	65	58
不動産	9	13	10	10	19	23	39	61
その他	0	1	0	-1	0	0	2	1
全社または消去	-1	-3	0	1	-1	-2	0	-1
合計	35	37	50	41	85	78	181	160

注：(E)は5月22日に発表した見込数値

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に対する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- 食品に関する衛生問題等について
- 商品や原材料の価格変動について
- 商品回収について
- 固定資産の保有リスクについて
- 保有有価証券について
- 為替変動リスクについて など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。